

令和4年度 学校自己評価システムシート

(私立 春日部共栄高等学校)

目指す学校像	全人的人間の育成という精神を基礎として、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を育み、社会の発展に寄与する有能な人材を養成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会貢献の意識を基礎とした高い志を育む自治活動の展開 2 生徒からの信頼や期待に高い水準で応え得る授業を中心とした教育活動の実践 3 生徒の可能性を引き出し、生徒の夢を実現する進路指導の充実 4 生徒、保護者、卒業生をはじめとする学校関係者への情報提供の推進
------	--

達成度	A	目標がほぼ達成できた
	B	目標が概ね達成できた
	C	取り組みに変化の兆しがみられた
	D	取り組みが不十分であった

<学校関係者評価委員会>	
協議委員 (学校関係者)	7名
内部委員 (教職員)	8名

学校自己評価					学校関係者評価	
年度目標			年度評価			最終実施日令和5年3月25日
番号	評価項目	具体策と評価指標	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの評価・要望
1	①「至誠一貫」の精神のもと、規範意識を高めリーダーシップを発揮できる人材育成とその伝統づくり	a. 公共マナーや情報モラルの向上を目指す継続的な指導 →学校生活アンケート 設問1・2で①②の回答率90%以上 設問3・4で①②の回答率80%以上 b. 生徒の主体的発信を軸にした自治活動の確立 →学校生活アンケート 設問5で①②の回答率80%以上	a. 公共マナーについては97.2%、挨拶・感謝の気持ちは96.4%、交通ルールについては98.5%の生徒が①②と回答し高い数値で目標に達したが、スマホのルール作りは61.2%にとどまった。 b. 生徒会や委員会から発信される情報については88.6%の生徒が意識して学校生活を送っている。	A	a. 「十か条」が定着し、生徒の規範意識に関する自己肯定は高い。しかし、SNS絡みのトラブルが散見され、情報モラルを高めていく必要がある。そこで次年度は共栄ルールの見直しとその周知、外部機関と連携し講演会を適切な時期に実施していく予定である。 b. 自治活動は教員主導から生徒主導への転換を目指し、粘り強く指導する。	・本年度も生徒中心主義の先生方の熱心なご指導の成果が十分に表れていると思います。さらに教員の意識向上に向け、学習指導・生活指導における教員間の温度差の是正が課題の一つであると思います。ミドルリーダーの働きかけが一定の効果を得るだろうと考えられます。 ・ボランティア活動、チューター付き自習室、メディカル論文講習の活性化を期待しています。教員と生徒の温度差の是正に向けた取り組みの工夫を望みます。 ・各目標に対し、検討と解決の具体策がよく示されていると感じます。価値観が短い周期で変わっていく今の時代、生徒の資質の変化、社会の変化によって、日々改善が必要になってくると思います。これからもこの変化を敏感に察知し、先手先手を打てる指導を期待しております。
	②年齢に応じた社会貢献やボランティア活動の実践	a. ボランティアに対する意識啓発と年間を通じたはたらきかけ →学校生活アンケート 設問6で①②の回答率80%以上 b. 災害時、緊急時の対応と地域への社会貢献 →学校生活アンケート 設問7で①②の回答率80%以上 c. 感染症予防対策への理解と実施 →学校生活アンケート 設問8で①②の回答率80%以上	a. ボランティアへの参加・協力では①②に回答した生徒は49.4%と減少しているが教員の意識は76.8%と高まっており生徒と教員の意識の差がある。 b. 防災意識は①②に回答した生徒は89.8%、教員は87.5%と意識は高い。 c. 感染症対策の意識についても①②に回答した生徒は97.3%、教員は98.2%と意識は高い。	B	a. 募金活動や夢の森公園の植樹活動など地域のボランティア活動も積極的に「快音」で紹介し生徒へ啓発していく。一部の生徒だけの企画にならないよう工夫して全生徒へ発信する。 b. 避難訓練のみでなく方面別通学会を活用しながら下校までを想定した動きも考える。 ・成人年齢引き下げに伴い、消費者教育に力を注ぎ、トラブルの未然防止に努めたい。	
	③生徒どうしが互いに応援しあい達成感を共有できる環境づくり	a. 「快音」等を利用した啓蒙活動の充実とお互いを認めあう意識づくり →学校生活アンケート 設問9で①②の回答率80%以上	a. コロナ禍であっても全国大会、関東大会、県大会出場のクラブも多く相互尊重・応援の意識は①②と回答した生徒は84.1%、教員は89.3%であり目標値を上回った。	A	a. グラフ会議や壮行会などコロナ禍で停止した教育活動の再開を模索する。また、2期制のメリットを活かし適切な休養をとりながらメリハリを持たせた文武両道を目指す。	
2	①生徒の自己学習力育成を可能にする授業の実践	a. 生徒個々の家庭学習計画の作成と実践 →学校生活アンケート 設問10・11・12・15・16・28で①②回答率70%以上 b. 個人面談を中心とした生徒個人々々に応じた学習・進路・生活指導の充実 →学校生活アンケート 設問24で①②の回答率80%以上 →保護者アンケート 設問2で①②の回答率80%以上	a. 普段から学習計画を立てている生徒は平日30.8%、休日31.9%、試験前を含めると平日73.9%、休日76.9%であった。しかし自学自習時間は平日2時間以上が44.2%、休日3時間以上が52.1%であった。 b. 個人面談では88.9%の生徒が役立っているという評価であった。保護者の方も75.7%がオンラインを含めたHRや面談を評価していただいている。	B	a. 週5日制になって土日の有効活用を促すとともに、課題についても教科間の調整をし生徒に過度の負担とならないよう工夫が必要。 b. 面談を通して観点別評価に基づき日常的な取り組みを促進させるような指導をしたり、行事や試験の配置を調整し学習の継続性を高めていきたい。	・「ボランティアへの参加・協力」「学習計画」の達成状況が長く課題となり続けていると感じます。特に計画を立てて物事に取り組むことは将来的にも必要なことですので、ぜひ身につけて社会に出ていけるようご指導をお願い致します。 ・自学自習の習慣はとても大切なことですが、個人差が大きくなりがちなので、意識の低い生徒たちにどのようにアドバイスして指導していくか、力を注いでいただきたいと思います。
	②2期制・週5日・45分7限授業を踏まえた取り組み	a. 2期制を踏まえた授業や各種試験の工夫と改善 →学校生活アンケート 設問13・17で①②の回答率70%以上 b. 長期休業中の取り組みと工夫 →学校生活アンケート 設問14・28で①②の回答率70%以上	a. 小テスト等取り組んでいる生徒は73.7%、学習・部活・休養がバランスよくとれている生徒は74.2%であった。 b. 長期休業中も学習にしっかり取り組んでいる生徒は67.5%、またChromebookを学習のために有効活用できている1年生は78.2%であった。	A	a. 各教科同時期に小テストが集中したりしないよう調整し生徒が計画を立て学習しやすい工夫が必要。面談を通して学校生活がバランスよく送れていない生徒へのフォローをしていく。 b. 長期休業中もオンライン等を活用し、学習を促す働きかけを定期的実施することが重要。 a. ICTを活用した授業の実践によるスキルアップ。	
	③授業点検と改善の実施	a. 授業アンケートの活用による授業点検と改善 →授業アンケート 総合満足度の①②の回答率85%以上	a. 授業に対する総合満足度は94.1%の生徒が①②に回答、教員の授業点検も82.2%と上昇している。	A		
3	①生徒の可能性を引き出し、生徒個々に応じた進路開拓と大学選択	a. 学年に応じた説明会、講演会、「Academic Issues」等を利用した啓蒙活動の充実および意識啓発 →学校生活アンケート 設問18で①②の回答率80%以上 b. オープンキャンパス等を利用した主体的な進路研究の実践 →学校生活アンケート 設問19・20で①②の回答率80%以上 c. 生徒・保護者対象進路説明会の実施と保護者からの意見集約 →保護者アンケート 設問8で①の回答率80%以上	a. 「Academic Issues」等が役立っていると回答した生徒は67.8%で目標値に届いていなかった。 b. 進路説明会等が役立っていると回答した生徒は74.3%であるが学年があがるほど数値は高まり3年生のみで見ると90.1%であった。 c. オンラインでの保護者説明会では55.7%と約半数が参加し昨年よりも微増、そのうち78.2%の保護者が①②に回答している。	B	a. 「Academic Issues」の内容を生徒に周知させるためにも面談等で活用する。発行回数や内容を吟味し、より一層の充実を図る。 b. 学部や学科のガイダンスなど1・2年生から仕掛け、目標大学を設定させていく。 c. オンラインと併用しながらアターコトに向けて保護者参加の進路説明会を作り上げていくことも視野に入れている。	・二期制・45分7限授業・週5日制を導入して自学自習の習慣を定着させ学力を伸ばしていこうという狙いは評価できます。その中で、課題や小テストが一定時期に集中し生徒の過重負担になっている問題点を挙げ、次年度に改善していくための具体的な取り組みを準備していることは良いことだと思います。問題点を分析し、具体策を検討していく姿勢を次年度も継続していただければと思います。
	②授業の充実と進学講習や模試等の仕掛けによる学力増進	a. 各種講習や試験の整理および充実とその活用 →学校生活アンケート 設問21・22・23で①②の回答率80%以上	a. 長期休業中の講習・勉強会等が役立ったと回答した参加生徒は78.7%、日常講習が役立ったと回答した参加生徒69.8%、試験の見直しをしている生徒77.1%といずれも昨年度の数値を下回った。	B	a. 長期休業中の講習に参加していない生徒が24.2%、日常講習に参加していない生徒が42.3%と数値が高いことから、二期制の中で再度学習と部活のバランスを考えてスケジュール調整することを考えたい。	
4	①本校Webサイト等を活用した学校関係者への情報発信	a. ホームページの充実と効果的な運用 →保護者アンケート 設問9で①②の回答率80%以上 b. 保護者向け連絡システム(BLEND)の有効活用 →保護者アンケート 設問10で①の回答率80%以上	a. ホームページを閲覧した保護者の77.5%が見やすい、わかりやすいと評価している。 b. 今年度から採用したBLENDについて役立っていると回答した保護者は61.9%、②の回答を含めると95.4%と高い評価であった。	B	a. 来年度リニューアルしたホームページをスタートさせ、より見やすく情報提供をしていきたい。 b. 出欠状況について保護者も把握しやすくなったが教員側のミスも散見されるので定期的な確認が必要である。	